



京都府立南山城支援学校

令和元年度 NO3



南山城相談支援センターニュース

〒619-0231 京都府相楽郡精華町山田医王寺1 TEL: 0774-72-1255

夏の研修会特集

令和元年度相談支援センター夏の研修会①②の内容を報告します。たくさんのご参加ありがとうございました。

研修会① 7/30 13:30~16:00 参加者 52名

「今を生きるためにつけたい力～発達障害支援・・・大学・就職の視点から～」

講師：京都大学 学生総合支援センター 准教授	村田 淳先生
同 障害学生支援ルーム 専門スタッフ	横山 弘和氏
京都府教育庁指導部高校教育課 首席総括指導主事	鋒山 智子先生



「今、子どもたちの将来のために何をすべきなのか？」卒業後・将来の姿を見据えた支援をするために、京都大学と高校教育課から、講師をお招きしてお話いただきました。

まず、高校教育課の鋒山先生からは、通級配置の全国状況や、京都府での現在の取り組み状況など、多岐にわたるお話が聞けました。「小中でやって来られた合理的配慮を含む支援については、個別の教育支援計画・指導計画で引き継いでいただくことで、高校でも必要に応じて実現できます！」とはっきりとおっしゃられ、大変勇気づけられました。

京都大学の村田先生からは、京都では、大学間連携や、企業との就労に関する連携も進められてきていること、京都大学での支援の状況、合理的配慮を行う上で妥当かどうかを判断する基準についても詳しくお話しいただきました。日本ではLDの大学生は少ないですが、海外からの留学生の中には、「読み書きはできない(苦手だ)けれども、研究レポートは書けるLDの学生」がたくさんいることなども紹介されました。

同じく京都大学で、当事者として学生支援をされている横山氏からは、これまでどのような支援が有効だったか、どのような支援があればより良かったか、現在どのような支援を活用して生活・仕事を整えておられるかなど、実感のこもったお話を聞かせてくださいました。

何度も話題に上がっていたのは、最も必要なのは、「自分から適切に支援を求める力(セルフ・アドボカシー)」ということです。国が障害者雇用を進める中で、「自己認知+セルフアドボカシー+身辺自立」があれば、企業に対して売り手市場である、ということも話されていました。

? 参加者から村田先生への質問があり、後日お答えいただきましたので、転載(抜粋)します

・支援者はどのような方ですか? → 大学によって状況が異なり、特別支援に関わる有資格者がいる場合もあれば、カウンセラーや保健師の方、事務窓口の方が相談されている場合も。あくまで大学の一機能なので、どのような体制が正解かは大学により異なると考えます。過渡期である故の難しさもあります。

・大学での具体的な支援にはどんなものがありますか? →

(1) 京大における支援例 → <http://www.gssc.kyotou.ac.jp/support/tipsguide.html>

(2) 「JASSO(日本学生支援機構)：合理的配慮ハンドブック」のなかにある支援例

→ https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/hand_book/08/index.html

(3) ご著書『高校・大学における発達障害者のキャリア教育と就活サポート』黎明書房 →



「発達障害の早期支援と中・長期的支援を事例から学ぶ」



講師：奥田健次先生（学校法人西軽井沢学園 理事長）

奥田健次先生は、2018年に日本初の応用行動分析学を用いたインクルーシブ幼稚園を長野県に開園されています。臨床心理士や専門行動療法士である奥田先生は、発達障害児とその家族への指導のために、全国各地からの支援要請にも応えておられます。そんなお忙しい中、はるばる長野県から南山城支援学校にお越しいただきました。

研修の中では、奥田先生が関わってこられた事例映像から、教師が変わることで子どもが変化する様子を見ることができました。指導方法や考え方は「〇〇である」「〇〇ではない」の二つではなく、子どもに関わる教員みんなで第3、第4の方法を考えだし、一貫した指導をすることが大切であること、子どもが困っている時に、「しばらく様子を見ましょう」ではなく、将来の子ども像を考えた支援を適切に考えていくこともまた大事であるということ学びました。

紹介された事例に、なんでも「嫌。」と言ってしまふ女の子への支援の中に、「指示を聞くことができるようになる」、という目標を達成する場面がありました。それは、大人の都合が良いように動けるようになる・・・ではなく、「子ども自身の将来の選択肢を広げるため」という、子どもにとっての“長期の目標”を、教師が見通して指導することが大切であることがわかりました。

受講者からは、「目からウロコでした」というお声が非常に多く、「行動分析学を学んでみたいと思います」「子どもを変えようと思う前に、教師が変わることの大事さを学びました」「行動の背景を探ること、スモールステップの大切さを学びました」など多くの感想をいただきました。奥田先生の著書の一部紹介させていただきます。（研修では色々な映像を見せていただきましたが、奥田先生の実践は、応用行動分析学の理論を理解した上でないと、上手く行きません。）明日からの指導に活かさせていただけることがたくさんあるかと思っておりますので、ぜひご一読ください。



左から [メリットの法則] 集英社新書 [しかりゼロで「自分からやる子」に育てる本] 大和書房
[教師と学校が変わる学校コンサルテーション] 金子書房 [拝啓、アスペルガー先生] 飛鳥新社

～南山城支援学校の取り組み紹介～

夏の研修会にはたくさんの方々に参加していただきありがとうございました。夏は学びの季節。本校職員も様々な研修・研究会で知見を広げてきました。生徒との関わりや授業づくりなど、実践に活かしていけるといいなと思っています。

2学期は学校祭（10月1～4日）、ふれあい心のステーション（9月4、5日）など、たくさんの方々に見守りながら児童生徒の学習の成果を知ってもらう機会があります。学校での学びが地域社会で生きていく力（個性を発揮し、多様な人とつながり、主体的に行動すること）となっているか、見ていただければと思います。

